

講義コード Course code	021017102
講義名 Course title(Japanese)	比較文化論B
英文講義名 Course title (English)	Comparative Culture B
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	後期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	月曜日
時限 Period	2時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

授業の内容（主題） Course description

比較文化論Aに引き続き、アジアのさまざまな文化を俯瞰し、考察したい。
ただしAの内容を発展させるべく、さまざまな理論を中心に授業を実施する。

到達目標 Course objectives

1. 比較文化論に関連するさまざまな理論について、理解を深める。
2. 具体的事例を踏まえつつ、「アジア観」を自らの裡に構想し、明確に提示することができる。
3. 自己（日本）と他者（異文化）の違いについて深く考究し、with/afterコロナの世界観を模索するための工夫や視点、発想を身につける。

授業計画表 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	文化と文明	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第2回	県民性	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第3回	日本辺境論	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。

第4回	沖縄・石垣島におけるフィールドワーク	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	和辻哲郎と佐藤洋一郎	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	文明の生態史観	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	乾燥の戦略 / 湿潤の思考(1)	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	乾燥の戦略 / 湿潤の思考(2)	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	アジアのA群とB群	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	「アジア的」ということ	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	東南アジアにおける飛躍と継続	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	東南アジアにおけるカミと神	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第13回	大伝統と小伝統	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第14回	熱い社会と冷たい社会	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	アジアの構造	講義内容全体を振り返り、独自のアジア観を思い描いてほしい。そのために、4時間以上の学修を求めたい。

授業計画コメント

Course outline

講義担当者は、エジプトを皮切りに、台湾、バングラデシュ、インドネシア、ネパール、インド、スリランカにおいて、フィールドワークを重ねてきた。さまざまなアジアで見聞きしたことを、受講生のみなさんと共有したいと強く願っている。

授業の進め方

Session plan

講義形式が中心となるが、受講生のみなさんの積極的な授業参加を歓迎したい。

また、最終的にレポートを書いてもらうべく、担当者が興味を持ったことをみなさんにお伝えするので、ぜひ、主体的に考察を進めてほしい。結果として何らかの「アジア観」がみなさんの裡に芽生えたなら、それは、激しく変化する今後の社会を生きる重要な指針となると信じて疑わない。

アクティブラーニング

Active learning

希望者には、レポート内容の相談に応じる。

また、適宜、コメント・シートへの記入を求めたい。

授業時間外の学修（予習・復習等）

Preparation and review outside classroom hours

レポート作成を意識して、授業に臨み、また、自ら考察を進めるようにしてほしい。そのための学修時間の確保を求めたい。

教科書等

Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

(必ず購入すべきもの)
Materials required for sessions

特になし。

参考図書
Reference book(s)

内田 樹 2009 『日本辺境論』, 新潮新書.
 中根千枝 2002 『社会人類学: アジア諸社会の考察』, 講談社学術文庫.
 和辻哲郎 1979 『風土: 人間的考察』, 岩波文庫.
 参考資料は適宜、配布する。また、そのほかの参考図書については、随時、授業中に指示するので、積極的に読んでほしい。

成績評価方法および評価基準
Evaluation criteria

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点
Assessment criteria

興味を持ったアジア文化を一つ、ないしは複数取り上げて、レポートを書いてもらう。内容は自由とする。是非、積極的・主体的に取り組みを期待したい。

課題のフィードバック
Feedback

希望者には、可能な限り、レポートに対するコメントをフィードバックをさせていただく。

学生へのメッセージ (履修上の心得)
Message to students (class guidelines)

本講義では、ともかく、さまざまなアジアについて、お話をさせていただく。受講生のみなさんには、気軽に耳を傾けてもらいたい。しかし、興味をもった内容があれば、とことん突き詰めて考えてみてほしい。そのための援助を惜しむつもりはない。

科目のレベル、前提科目など
Level / Prerequisites

アジア文化に関する入門的な講座にしたい。よって、どなたでも、受講可能である。
 本講義で得られる基本情報は、以後の、さまざまな研究的授業の助けになると信じて疑わない。

キーワード
Keyword(s)

比較文化論, 比較文明論, 地域共創, SDGs

講義コード Course code	021017101
講義名 Course title(Japanese)	比較文化論B
英文講義名 Course title (English)	Comparative Culture B
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	後期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	木曜日
時限 Period	1 時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	范 力		経営学科

授業の内容（主題） Course description <p>中国をはじめ国際社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。</p> <p>授業では、前期（A）後期（B）を通じ中国、香港、台湾、インド、オーストラリア、アフリカ、欧米諸国などの特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で日本が目指すべき将来の姿について考えたい。</p>
到達目標 Course objectives <p>各国の文化や社会についての理解を深めるとともに、異なった文化、社会に対する寛容な心を養うことができる。</p> <p>これらの文化、社会の日本にとっての重要性についての理解を深めることができる。</p> <p>ひるがえって、日本の文化や社会の特性についての理解を深めることができる。社会に出た際に、国際的関連性を理解して仕事に取り組める能力を養うことができる。</p> <p>期末レポートの執筆を通じて、自分自身で考える力を養うことができる。</p>
授業計画表 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	オリエンテーション	配布プリントをもう一度読み通して、本科目の内容を確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第2回	ごあいさつの仕方について	各国や各民族の異なったあいさつの仕方から見えてくるものを再確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第3回	自民党「独裁」？それとも共産党独裁？	違う視点から日本の「政権与党」あるいは中国の「執政党」の特徴を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第4回	日中食文化の比較	映像などを見ながら食文化の異同を再確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第5回	人民公社と華西村と共同富裕	「人民公社」という絶対的な「平等社会」から「先富論」という相対的な社会へ移行する中国を再認識する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第6回	日本の大学の授業を考える（ディベート）	他国と比較しながら、白鷗大学の授業について討論。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第7回	映画鑑賞会・『正義の行方』	映画を鑑賞しながら、中国法律と共産党との矛盾を再認識する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第8回	東京五輪・北京五輪開会式比較	東京五輪と北京五輪開会式を通して日中両国の「ソフトパワー」を再確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第9回	日本はどうみられるか	外国人から見た日本の長所と短所を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第10回	インドと中国比較	新興する中国とインドの異同をもう一度振り返る。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第11回	アフリカから見た中国モデル	なぜアフリカと日米から見た中国は異なったかを再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第12回	拉致問題・孟晩舟事件と日本・北朝鮮と中国・アメリカ	日本と中国の抱える問題点を整理し、解決策を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第13回	中国とどう付き合えばよいか	つきあい方を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第14回	東洋思想と西洋思想	世界のために、東洋の思想をいかに生かせればよいかを再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第15回	まとめ、目的達成かチェック	シラバスに書かれた目標をどこまで達成できたかを振り返る。レポート作成には8時間以上を費やす。

授業計画コメント

Course outline

日中などの国同士の異同を徹底的に調査、研究しながら、それぞれの文化を比較していく。

授業の進め方

Session plan

講義、プレゼン、グループディスカッション、映画鑑賞、ディベート、その他

アクティブラーニング

Active learning

履修生によるグループ学習はこの授業の一つの特徴である。そのため、能動的学習は常に求められる。

授業時間外の学修（予習・復習等）
Preparation and review outside classroom hours

プレゼンがあるため、その準備（予習）や反省（復習）を心にかける。

教科書等
Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

（必ず購入すべきもの）
Materials required for sessions

なし

参考図書
Reference book(s)

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

成績評価方法および評価基準
Evaluation criteria

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率％ Evaluation ratio	0%	0%	70%	30%

成績評価の方法に関する注意点
Assessment criteria

レポートや授業への貢献度などによる総合的に評価する。受講態度は授業時の報告やグループメンバー同士のディスカッション等を含む。

課題のフィードバック
Feedback

毎週の授業後の振り返りを心にかける。

学生へのメッセージ（履修上の心得）
Message to students (class guidelines)

できるだけ授業対象地域についての解説書や新聞を読み、質問および意見を準備して授業に臨む。

科目のレベル、前提科目など
Level / Prerequisites

なし

キーワード
Keyword(s)

学習・能力・視野・友人